

令和8年度

勝浦中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

教育機器の有効活用やグループ学習を取り入れたわかる(できる)授業づくり  
～ 生徒が通いたくなる学校、保護者が通わせたい学校を目指して～

校長

高田 修作

学力向上推進員

谷口 勇

【各校の取組状況の把握について】

教員相互の積極的な授業参観を行い、各教科の枠を越えて、学校全体で取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○生徒間の人間関係が良好であり、落ち着いた学習環境が整っているため、学力を身につけやすい状態にある。授業には真面目に取り組む生徒が多い。見通しがはっきりしている活動には、意欲的に取り組むことができる。  ●学習における基礎・基本が定着しておらず、学習に対して、粘り強く取り組むことが難しい生徒も一定数存在する。(家庭学習の習慣が定着していない。)	・授業に意欲的に取り組み、授業の中で知識や技能の向上を図ろうと努力する。  ・授業や家庭学習に粘り強く取り組むことで、基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ○徳島版読解力「正確に読む力」	・授業のまとめや振り返りの充実を図る。教科の枠を越えて、「魅力ある授業」「わかる授業」づくりのために、教員同士の積極的な授業参観を行うことで、指導方法・指導技術の向上を図る。  ・個々の課題を的確に把握し、確認・指導をする。(個々の理解や技能等に応じた指導をする。)  ・生成AIの活用を含むタブレット端末の効果的な活用方法について研修を重ね、授業で実践する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○積極的に自分の考えを表現しようと努める生徒が多い。生徒の多くは明るくまじめで、話し手の考えを素直な心で受け止めて、一生懸命に聞くことができる。  ●話し手の考えを一生懸命に聞くことはできるが、他者の考えを聞いて、自分が感じたことを表現したり、質問したりすることで、自分の考えを更に深めていくまでには至っていない。様々な知識や情報を取捨選択し、自分で物事を考えていく力に課題を感じる。	・情報や知識を自分で整理し、自分の考えをもつことができる。 ○徳島版読解力「必要な情報を取り出す力」 ○徳島版読解力「見直す力」  ・相手に自分の考えを説明したり、相手の考えを引き出したりすることができる。 ○徳島版読解力「比較・関連付けて理解する力」 ○徳島版読解力「発信する力」	・教材研究において、「考える活動・話す活動」を授業の中で意図的に取り入れる工夫をする。  ・授業の中でペア学習やグループ学習などを取り入れることにより、思考力・判断力・表現力の育成を図る。また、ICT機器を効果的に活用し、学習効率を上げる。(地域の専門的人材の活用も計画的に導入する。)  ・授業や学活等で発表やスピーチを積極的に取り入れ、自分の考えを整理し、自分の言葉で発表させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられる様々な課題に対しては、真面目に取り組む生徒が多い。また、更に成長していきたいという想いをもっている生徒も多い。  ●毎時間、自ら課題を持って授業に臨んだり、主体的に解決しようとしたりする生徒が少ない。	・読書の意義を理解し、自主的に読書をする ○徳島版読解力「正確に読む力」  ・授業において、めあてに関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。  ・家庭学習において、計画性をもって学習に取り組むことができる。	・読書の意義を伝える。また、各教室の後ろの本棚を活用し、読書に関心が向くようにする。(学級文庫の充実と整備)  ・授業の最初にめあてと流れなどを説明し、学習の見通しをもって臨ませる。(積極的な評価を行うことで、生徒の学習意欲を高める。)  ・「学年通信」等を通じて、家庭の協力も得られるよう努める。また、英検・漢検等の受検を奨励しながら、学ぶ喜びを体感させる。			